

月刊 やちまなこ

2015.4.15 発行

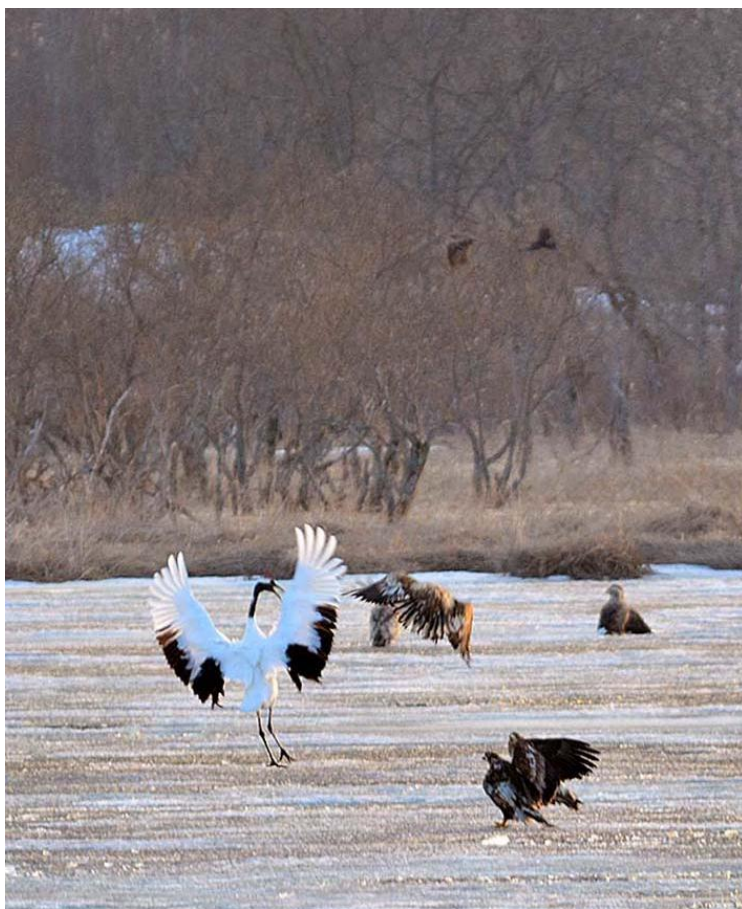
No. 209

4 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより

湿原散歩

雪解けが進み、湿原を流れる川の水は溢れ、ヨシ原は水浸し、ハンノキ林はまるで孤島のようになり樹影が水面に揺れている。オオハクチョウと入れ代るようにアオサギの姿が目立つようになり、コロニーも賑やかになってきた。賑やかといえば、エゾアカガエルも同様で、既に産み終えた卵がキラキラとスゲの若芽とともに輝いていた。4月の光と水は湿原を徐々に目覚めさせ、新しい命を育む環境を整え始めていた。



コッタロ川と湿原のほとりから

178 4月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住. 中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

“春雷や白魔の記憶夢の跡”。5尺を越す記録的な大雪も、一晩中続いた激しい暖雨に叩かれてヘラヘラ——と地面を這う様にとけ、斑模様と化した草地は芽吹き始めた緑に覆われようとしております。異常気象が日常となりつつあるコッタロでは、ひと月遅れで巡ってきた季節に大わらわ。冬鳥達は旅立ち、最後迄残っていた花鶏の群も4月4日、夏鳥のキジバトや雲雀の渡来と入替わるように一羽残らず消え去り、いよいよ春本番か？と思いきや、4月9日明け方に降ったゲリラ雪が大地を隠してしまうと、再びエサの豊富な庭へと舞戻ってきた瞬間をパチリ。“名残り雪うしろ髪ひくアトリ哉”。



ところで、3月22日から抱卵中の丹頂第2コツ&タロは♂♀交替で今のところ順調に営巢中。一方、第1コツ&タロは、3月3日、子別れにしこたま手こずった挙句の果てのアクシデントで♂（王者）自身深手を負い、一旦は傷だらけで帰還し、ホッとしたのも束の間、4日4晩の不在中に侵入してきたらしい若♂に♀もろとも営巢地を丸ごと奪取されてしまったからたまらない。不運にも繁殖期真っ只中にあった♀はあっさりと、強くて若い♂に従い、第1♂（王者）が見限られたのです。それでも新♂に決闘を挑み、初めは互角に渡り合っていたのですが、度重なるにつれ、寄る年波には勝てず、血みどろでフラフラになっても、嘴からしたたる血をもものともせず、全身血染めの翼をむなしくはばたかせて、ゆらりゆらり飛び去らざるを得ませなんだ。『野生の掟』とは云うものの、22羽の幼鳥で打ち止めとなった王者はしかし、25年以上このエリアを支配し続けた開拓者でもあり、我等と心を通わせることに成功した元祖であるだけに、どことなく割り切れない気持ちであることは否めませんね。このどんでん返しで♂が入替わったのを気付かれまいとする♀の変身ぶりには驚くばかり。オドオドビクビクで逃げ腰になる新入♂をさとす様に、堂々と大胆不敵なふるまいで、かつてなく我等に接近してくるではありませんか。一つだけ安心させられたのは、この若君が、ここで生まれた個体でなく、近親交配の心配は不要ということでしょう。写真の「サギの目様」で鋭い瞳の新入り♂と、王者のまっ黒いつぶらな瞳とを見比べれば一目瞭然。これ迄ツル社会は「♂優先社会」であると思込んでいた固定観念と、「番は一生涯連れ添う」との常識が崩れ去った一件はしかし、貴重な目撃証拠と云えるのではないのでしょうか。



さて、例年この月にはコッタロ川の上流域で越冬中のウグイの大群が下って来る頃を見計らって水面をのぞき込めば、“川波のいざよう岸に猫柳チロロと映えて魚影紛らす”ばかりでした。

湿原の住人たち その169

キノコといえば秋のものというイメージをもつ人が多いような気がしますが、春から見られるキノコも意外とあります。

写真のチャアミガサタケもそのひとつで、エゾヤマザクラやキタコブシの花が見頃を迎えた5月下旬に、サルボ展望台へ行く途中の散策路の脇で見つけました。和名は「茶編笠茸」と書きます。似たアミガサタケの仲間がありますが、こちらは網目の中が暗褐色なのが特徴です。こうみえて食用キノコです。

チャアミガサタケ



塘路湖の解氷とともに



今年も湖の解氷が進むにつれ、オジロワシやオオワシが氷上に集まっていました。北帰行前の打ち合わせでしょうか、ワシの音が響いていましたよ。



塘路湖では釣りを楽しむ人の姿も徐々に増える時期です。解氷からゴールデンウィークにかけてはアメマスが釣れるため、今年26日に第4回塘路湖アメマスダービーが開催される予定です。*塘路湖での釣りは遊漁料が必要です。問い合わせはレイクサイドとうろ Tel.015-487-2172 まで

つぼっちの塘路周辺うろうろ日記 Vol.79 「ウサギ増加の予兆か・・・？」

春になり私がこの塘路に来てから14年目を迎えますが、今年はこちらに来て初めて経験した積雪量でした。3月下旬にはまだ山高く積もっていた雪も、近頃急速に溶け春の兆しを感じつつあります。

そんな折、夜に車で走っていると、なんかやたらと白いものが目に入りました。路肩の汚れた雪の中に立つ白い物体はユキウサギでした。ユキウサギは冬季間、雪上に残された足跡をよく見る事ができますが、なかなか動いている姿を見るのは難しく、私も白い冬毛のユキウサギは初めて見る事ができました。

実は8年ほど前同じように夜の運転中に、初めてタヌキを見かけ感激した事があります。どうも標茶ではその頃タヌキが増えていたらしく、あの感激がウソのように現在ではよく見る事ができるようになりました。今度はウサギがそうなるのかも今後が楽しみな出来事でした。

坪岡 始 (標茶町郷土館学芸員)



